

KEK サマーチャレンジ

東京大学大学院数理科学研究科
加藤 晃史

第5回「KEK サマーチャレンジ」が、2011年8月18日（木）から8月27日（土）までの10日間にわたり、高エネルギー加速器研究機構（KEK，旧高エネルギー物理学研究所）にて開催され、日本全国から約90名の若者がこれに参加しました。

「KEK サマーチャレンジ」とは、同研究所が平成19年から毎年行っている大学生を対象とした合宿型のサマースクールです。全国の応募者の中から書類審査で選ばれた学生達が、研究所の宿舎で寝食を共にしつつ様々なテーマについて講義を受けたり、グループに分かれて研究者と一緒に実験・演習を行います。その成果は合宿最終日の発表会でパソコン等も用いてプレゼンテーションしなければならず、かなり密度の濃い合宿です。

サマーチャレンジは、かつては90%を越えていた高校生の物理履修率が20%台にまで落ち込んだことに危機感を抱いたKEKの有志らが、次世代の基礎科学を担う若者たちの育成を目指して立ち上げたということです。テーマは当初は素粒子・原子核物理学のみでしたが、昨年からは物質・生命科学も加わりました。

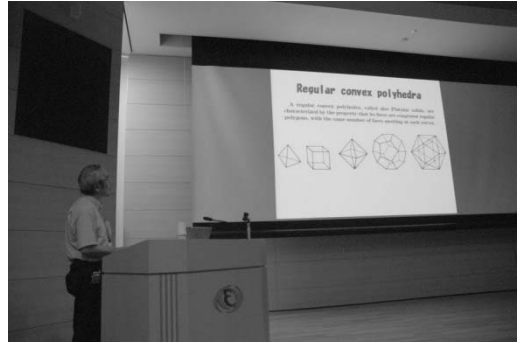


今年度から日本数学会も後援することになり、前田前理事・小谷現理事・石渡聡氏（筑波大学）・私を含むメンバーで、どのような協力が可能かなどを検討しました。結局KEK側の希望もあり、今年は数学の共通講義を1コマ用意するという形で協力することになり、明治大学の砂田利一先生に講演を打診したところ、快く引き受けて下さいました。砂田先生には「Topological Crystallography」という表題で、結晶格子の分類について、その歴史からトポロジーがいかに応用されたかまでをわかりやすく解説していただきました。講義終了後も質問が続き、関心の高さが伺われました。

東日本大震災の今年は原発事故や節電の影響もあり、サマーチャレンジの実施が危ぶまれました。結局、例年行われていた東海村にあるJ-PARK見学ツアーが中止になったり、

「福島原子力発電所由来の放射線の測定と放射線防護の基礎」という共通講義が用意されたりしたもの、ほぼ予定通りに運営されたようです。

食堂で話した学生たちは、「数学に進むか物理に進むか迷っていて、とにかく参加してみた」「往復の交通費や期間中の食費までサポートしてもらっていいのかな?」「参加したいのに選ばれなかった友達の分も頑張らねば」などと話していました。また、合宿を終えた感想には、「最低限の情報しか与えられないので自分で調べるしかなく、大変だったが、ためになった。」とか「同じ研究志す同世代の仲間と交流することが刺激的だった。」という趣旨の感想が目立ちました。実際、見学した我々も「自分がもし大学生だったら参加したい」と思わせる内容でしたので、来年のサマーチャレンジには、数学の学生にも応募を勧めて頂きたいと思います。



資金・施設・スタッフに恵まれた研究所ならではの催しではありますが、理系離れといわれる昨今、数学も手をこまねているわけには行かないのではと考えさせられました。今後、サマーチャレンジに数学会としてどのように協力して行くのがよいか、ご意見等をお寄せいただければ幸いです。